禿

總角

決曰

橘之光有長屋爾、吾率宿之、宇奈爲放爾、髮擧都良武香、

〔大和物語上〕桂のみこに式部卿の宮すみ給ける時、その宮にさぶらひけるうなゐなん、このおとこ宮をいとめでたしと思ひかけ奉りけるをも、えしり給はざりけり、

〔拾遺和歌集夏〕さた文が家の歌合に　みつね

郭公をちかへりなけうなひこがうちたれがみのさみだれの空

〔倭言字考節用集四人倫〕禿人韵會、髮不織長若禾稼也、髧首同楚辭　禿丁同又云禿童

〔倭訓栞前編加六〕かぶろ　童丱禿髫をいふ、髮振の義なるべし、〇略中日本紀に岐嶷をよめるは、義をもて訓せるもの也、

〔日本書紀十三允恭〕雄朝津間稚子宿禰天皇〇略中天皇自岐嶷至於總角仁惠儉下、及壯篤病容止不便、

〔倭名類聚抄二老幼〕總角　毛詩注云、總角和名阿介萬岐結髮也、

〔箋注倭名類聚抄一男女〕按崇峻紀云、古俗年少兒、年十五六間、束髮於額、十七八間、分爲角子、角子卽總角、故紀訓安介萬幾、新撰字鏡髬字亦同訓、〇略中蓋擧髮卷束之義、後世鬢頰卽是、禮記內則、三月後翦髮爲鬌男角女羈、皇國俗雖不剪髮、夾囟結髮之狀、似西土總角、故總角充阿介萬岐也、又按美都利古也、和良波也、宇奈爲也、安介萬岐也、皆以頭髮爲別、後世所言目刺亦然、猶今俗以罌粟殼頭、截髮前髮別長幼也、〇略中所引衞風氓篇傳文、

〔日本書紀二十一崇峻〕二年〇用明七月、是時厩戸皇子束髮於額古俗年少兒、年十五六間、束髮於額、十七八間、分爲角子、今亦然之、而隨軍後、

〔日本書紀七景行〕四十年十月癸丑、日本武尊發路之、〇略中既而崩于能褒野、時年三十、天皇聞之、〇略中因以大歎之曰、我子少碓王、昔熊襲叛之日、未及總角、久煩征伐、〇略中是歲天皇踐祚四十三焉、